多職種連携のためのアカデミックリテラシー

責任者・コーディネーター	人間科学科哲学分野 遠藤 寿一 教授
担当講座・学科(分野)	人間科学科哲学分野、人間科学科文学分野、 人間科学科心理学·行動科学分野、人間科学科法学分野、 情報科学科数学分野、物理学科、化学科、生物学科、 外国語学科英語分野、人間科学科体育学分野、緩和医療学科、附属図書館
担当教員	遠藤 寿一 教授、平林 香織 教授、三浦 康宏 助教、相澤 文恵 教授、藤澤 美穂 助教、廣瀬 清英 講師、江尻 正一 教授、佐藤 英一 教授、小松 真 講師、小田 泰行 助教、寒河江 康朗 助教、中島 理 教授、東尾 浩典 講師、岩渕 玲子 助教、吉田 潤 助教、松政 正俊 教授、三枝 聖 講師、阿部 博和 助教、Jamas Hobbs 教授、柳谷 千枝子 助教、大沼 仁美 助教、小山 薫 准教授、長谷川 大 助教、Jonathan Levine-Ogura 助教、内藤 雪枝 助教、木村 祐輔 特任教授、司書
対象学年	1 区分・時間数 演習 30 時間
期間	通期

· 学習方針 (講義概要等)

現代の社会では、医療技術の複雑化に対応し、また超高齢化に伴う全人的医療ケアを提供するために、専門職間の連携・チーム医療の重要性が増している。こうした理由から近年、医療系分野を中心に多職種(専門職)連携教育(IPE:Interprofessional Education)が広がりを見せ、複数の専門職が集い、連携・恊働の質、ケアの質を向上させるために、共に学び、互いに他から学び合い、お互いについて学ぶこと、が重視されるようになってきた。

本科目は、このようなチーム医療の基礎を築く IPE の入門コースであり、3 学年における「チーム医 療リテラシー」および4学年に予定されている4学部の合同セミナーに連結するものである。そのた め、本科目の目標は、こうした学びに必要な問題解決能力の育成とアカデミックリテラシー(大学で 学ぶための諸能力)の修得に置かれる。具体的には、4 学部合同の少人数グループを学びの単位と し、アクティブラーニングの要素を取り入れながら問題解決型学習を行うとともに、問題解決にとっ て有用なアカデミックスキルを修得するコースを設定し、次の二種類の能力の基盤づくりを行なう。 一つは、これからの専門職に求められる能力(医療人としての自覚、他職種の役割理解・尊重、チー ムワーク、役割と責任、課題を見いだし解決に導くための協働と自己主導型学習)、もう一つは、専 門知識を修得し、研究能力を身につけていくために必要な一般的学習能力(論理的思考、論理的文章 作成、コミュニケーション・スキル、プレゼンテーション・スキル、情報検索スキル)である。 本科目の目標と内容・形態の対応関係は以下のようになる。(1)専門職に求められる問題解決能力 の養成については、まず医療分野等に関するテーマについて WS(ワークショップ)形式の PBL(プ ロジェクト型学習)を実施し、KJ法・二次元展開法を用いた課題解決のためのグループ討議、ポスタ 一発表を行う。この PBL-WS では、教員全員がテューターとして学生をサポートする。次いで、iPEG (Interprofessional Education Game) を用いて、様々な医療専門職の役割や責任についての理解を深 め、その後、コンセンサスワークを通じて、チームで考え、活動することの重要性を学ぶ。(2)-

般的学習能力の養成については、考える技術(クリティカルシンキング)、書く技術(ロジカルライティング)および入門レベルの論理学のプリントを使用して学習を行い、ディベートでは、これらの知識を踏まえてプレゼンテーション能力を養う。また図書館の施設や検索ツールを使用した図書館演習を行なう。

(1) は(2) の学びの必要性を動機づけ、また(2) はたんなる座学ではなく(1) で形成された協働の姿勢に基づいて実施される。つまり、本科目の全プロセスは有機的に連関している。したがって、授業の際は(1) と(2) で学ぶことの結びつきを意識しながら、参加してもらいたい。

・教育成果(アウトカム)

図書館実習と文献検検索演習によって、適切かつ正確な情報を検索・収集するスキルが身につき、自分の考えや表現に説得力と奥行きを与えることができるようになる。

PBL-WS、iPEG、コンセンサスワーをグループで行なうことで、医療人としての意識が高まり、他職種の役割や責任および多職種を目指す人の考え方を理解し、尊重する態度が身につく。また、課題解決に向けたチームワークの重要性の意識、各自の役割に対する責任感が培われ、チームに貢献するためには、自己主導型学習が大切であるという認識も形成される。

考える技術(クリティカルシンキング)、書く技術(ロジカルライティング)および論理学の初歩を 学び、論理的な考え方や論理的な表現方法の基本を習得し、それらをディベートに応用することで、 他者の発言や文章を整合的に再構成して理解したり、自分の考えを整理して分かりやすく伝えること ができるようになる。またこれによって、適切な質疑応答を含むコミュニケーションやプレゼンテー ションの能力が高められる。

以上によって、プロとしての意識が高まるとともに、医療に関する問題を解決するための総合的な力が養われる。(ディプロマポリシー:3、4、5)

·到達目標(SBO)

- 1. 発言(文章)に含まれる議論の構造を読み取り、隠れた前提を明示して、根拠の妥当性を批判的に検討することができる。
- 2. 主張・根拠・結論を備えた文章作成ができる。
- 3. ディベート:1・2 を踏まえたプレゼンテーションができる。
- 4. 論理的思考入門:論証のタイプ(演繹・推測[帰納法や仮説演繹法など])が判別でき、基本的論理関係(逆・裏・対偶・必要条件と十分条件など)を説明できる。
- 5. 必要な情報を図書館やインターネットを利用して収集できる。
- 6. 調べた情報に根拠づけができる。
- 7. KJ法・二次元展開を使用して問題点を抽出・整理し、解決策を考え出して、それらを分かりやすくプレゼンテーションすることができる。
- 8. 医・歯・薬・看護学部それぞれの職種の役割・責任を理解し、互いの立場を尊重することができる。
- 9. チームで考え、活動することの重要性を説明できる。

・講義日程

(矢)西 1-A 講義室、西 1-E 講義室、東 1-A 講義室、東 2-C 講義室 東 2-D 講義室、東 2-E 講義室、東マルチメディア教室、大堀記念講堂

【演習】

クラス	月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容/到達目標
C1	4/13	金	2	文学分野 心理学·行動科学分野 附属図書館	平林 香織 教授藤澤 美穂 助教司書	図書館演習 1. 図書館を有効に利用して、情報を収集し、与えられた条件に相応しい書籍を探し出すことができる。 [A-2-2)-①]
C1	4/18	水	4	哲学分野	遠藤 寿一 教授	多職種ガイダンス 1. 多職種連携と本講義の関係を 理解し、説明できる。
C1	4/20	金	3	哲文文心心法数物物物物化化化化生生英英体数英生英生哲文文理學学学理理理理学学学学物物語語育学語物語物分分分分行分分学学学学科科科科学学分分学分分学分学野野野科科科科科科科科科野野分野野科科科科科科科	遠平三相藤廣江佐小小寒中東岩吉松三J柳小長大阿Jon内藤林浦澤澤瀬尻藤松田河島尾渕田政枝mas 川東香康文美清正英真泰理浩玲潤正聖H七薫 仁博哈雪寿香康文美清正英真泰理浩玲潤正聖H七薫 仁博哈雪村	ワークショップ① PBL オリエンテーション(記念講堂)と KJ 法による討議(SGL 1. 問題解決型学習の意義を説明できる。 2. KJ 法を用いて問題点の抽出ができる。 [A-2-1)-①②③④、A-2-2)-②、A-4-1)-②、A-9-1)-①]
C1	4/20	金	4	哲学分野 文学分野 文学分野 心理学·行動科学分野 心理学·行動科学分野	遠藤 寿一 教授 平林 香織 教授 三浦 康宏 助教 相澤 文恵 教授 藤澤 美穂 助教	ワークショップ② 二次元展開法による討議(SGL) 1. 二次元展開法を用いて問題点 を整理できる。 [A-2-1)-①②③④、A-2-2)-

				法数物物物物化化化化生生英英体数英生英生学学理理理理学学学学物物語語育学語物語物分分学学学学科科科科学学分分学分学分学分野野科科科科科科科科科科科科科科科科科	廣江佐小小寒中東岩吉松三Ja柳小長大阿Jonathan Levine-Ogura 助助明授授 教助 師教 授 授教教教教教教教师教师 的时间的 一次 一次 一次 中央 中東岩市 四次 一个 计算 一个 一个 计算 一个	②、A-4-1)-②]
C1	4/27	金	3	哲文文心心法数物物物物化化化化生生英英体数英生英生学学学学学学理理理理学学学学物物語語育学語物語物分分分分行分分学学学学学科科科科学学分分学分分学分学野野野科科科科科科科科科野野科野科科科科科科科科	遠平三相藤廣江佐小小寒中東岩吉松三J柳小長大阿Jonathan 展林浦澤澤瀬尻藤松田河島尾渕田政枝兩谷山谷沼部山藤寿香康文美清正英真泰 理浩玲潤正聖HO千薫 仁博記書一織宏恵穂英一一講行康教典子助俊講的枝准大美和Ogy枝教助教助講教教師助朗授講助教教師。子教助助助助助授授教授教師授授 教助 師教 授 授教教教教教教教教教授教師授授 教助 師教 授 授教	ワークショップ③ PBL オリエンテーション(記念講堂)と討議(SGL) 1. 問題点の解決策を提示することができる。 [A-2-1)-④⑤、A-2-2)-②、A-4-1)-②]
C1	4/27	金	4	哲学分野 文学分野 文学分野	遠藤 寿一 教授 平林 香織 教授 三浦 康宏 助教	ワークショップ④ ポスター作成・プレゼン準備 1. 分かりやすいプロダクトを作

				心心法数物物物物化化化化生生英英体数英生英生党学学学理理理理学学学物物語語育学語物語物学介分分学学学学科科科科学学分分学分学分学分学学学学科科科科科科野野分野野科科科科科科科科	相藤廣江佐小小寒中東岩吉松三Ja柳小長大阿Jonthan 内澤澤瀬尻藤松田河島尾渕田政枝四谷山谷沼部山文美清正英真泰 理浩玲潤正聖Ho千薫 仁博雪恵穂英一一講行康教典子助俊講的枝准大美和Oguz地大 教師 助朗授講助教教師 教助時教教師助助問題 財務 教師 別別 一個	成することができる。 2. 説明すべき内容を簡潔にまとめることができる。 [A-2-2)-②、A-4-1)-②]
C1	5/11	金	3	哲文文心心法数物物物物化化化化生生英体数英生英生学学学学学学理理理理学学学学物物語育学語物語物分分分分下介分分学学学学科科科科学学分学分分分学分学野野野科科野科科科科科科科科科科科科科	遠平三相藤廣江佐小小寒中東岩吉松三柳小長大阿如內內藤林浦澤澤瀬尻藤松田河島尾渕田政枝谷山谷沼部油藤寿香康文美清正英真泰 理浩玲潤正聖千薫 仁博哈雪一織宏恵穂英一一講行康教典子助俊講枝准大美和兒時枝教助教助講教教師助朗授講助教教師子教助助助助助授授教授教師授授 教助 師教 授 助授教教教教教教教	ワークショップ⑤ ポスター発表 1. 討議の成果をわかりやすく説 明することができる。 2. 質疑に適切に応答することが できる。 [A-2-2)-②、A-4-1)-②]
C1	5/11	金	4	哲学分野 文学分野	遠藤 寿一 教授 平林 香織 教授	ワークショップ⑥ 全体講義

	T T	ĺ	1	ĺ		
				文心心法数物物物物化化化化生生英英体数英生英生缓学学学学理理理学学学学物物語語育学語物語物和分行行分分学学学学科科科科学学分分学分分学医野蝌科野野科科科科科科科野野分野野科科科学学分分野野科科科科科野野	三相藤廣江佐小小寒中東岩吉松三J柳小長大阿Jonathon 清澤澤瀬尻藤松田河島尾渕田政枝ma公山谷沼部肺 東文美清正英真泰 理浩玲潤正聖HO千薫 仁博·levingingingingingingingingingingingingingi	1. 多職種連携の事例を学び、その課題を説明できる。 2. 各自の作業をふりかえり、今後の課題を検証することができる。 [A-2-1)-⑤、A-4-5)-①]
C1	5/18	金	3	哲学分野 文学分野 心理学·行動科学分野 心理学·行動科学分野 法学分野 附属図書館	遠藤 寿一教授 平林 香織 教授 相澤 文恵 教授 藤澤 美穂 助教 廣瀬 清英 講師 司書	アカデミックリテラシーガイダンスとコンセンサスワーク/文献検索演習(2コースに分かれて実施) 1. チームで考え、活動することの重要性を説明することができる。 2. 必要かつ適切な医療情報を図書館やインターネットを活用して収集することができる。 A-2-2)-①②、A-4-1)-②]
C1	5/25	金	1	哲学分野文学分野心理: 行動科学分野心理: 行動科学分野 心理: 行動科学分野 法学分野 法学分野 附属図書館	遠藤 寿一教授平林 香織教授相澤 文惠 教授 接藤 秦 美穂 財教 廣瀬 清英 請師 司書	アカデミックリテラシーガイダンスとコンセンサスワーク/iPEG説明/文献検索演習(3コースに分かれて実施) 1. チームで考え、活動することの重要性を説明することができる。 2. 多職種連携が重視されるようになった歴史的・社会的な背景を理解し、その意義を説明することができる。 3. 必要かつ適切な医療情報を図書館やインターネットを活用し

		1	r	1		
						て収集することができる。 [A-2-2)-①②、A-4-1)-②、 A-5-1)-①②]
C1	6/1	金	3	哲学分野 文学分野 心理学·行動科学分野 心理学·行動科学分野 法学分野	遠藤 寿一教授 平林 香織 教授 相澤 文恵 教授 藤澤 美穂 助教 廣瀬 清英 講師	iPEG 説明/iPEG(2 コースに分かれて実施) 1. 多職種連携が重視されるようになった歴史的・社会的な背景を理解し、その意義を説明することができる。 2. 多様な医療専門職の役割と責任を理解し、尊重することができる。 [A-4-1)-②、A-5-1)-①②]
C1	6/8	金	3	哲学分野 文学分野 心理学·行動科学分野 心理学·行動科学分野 法学分野 附属図書館	遠藤 寿一教授授 教授授 教授授 教教 教教 教 教 教 教 教 教 教 新	iPEG/考える技術/文献検索演習 (3 コースに分かれて実施) 1. 多様な医療専門職の役割と責任を理解し、尊重することができる。 2. 発言(文章)に含まれる議論の構造、隠れた前提、根拠を意識し、批判的に検討することができる。 3. 必要かつ適切な医療情報を図書館やインターネットを活用して収集することができる。 [A-2-2)-①②、A-4-1)-②、A-5-1)-①②]
C1	6/15	金	3	哲学分野 文学分野 心理: 行動科学分野 心理: 行動科学分野 法学分野 附属図書館	遠藤 寿一教授 平林 香織 教授 授授 教表 教授 美 美	考える技術/書く技術 1/文献検索演習 (3 コースに分かれて実施) 1. 発言(文章)に含まれる議論の構造、隠れた前提、根拠を意識し、批判的に検討することができる。 2. 論理的な文章とは何かを説明できる。 3. 必要かつ適切な医療情報を図書館やインターネットを活用して収集することができる。 [A-2-2)-①②]
C1	6/22	金	1	哲学分野 文学分野 心理学·行動科学分野 心理学·行動科学分野 法学分野	遠藤 寿一 教授 平林 香織 教授 相澤 文恵 教授 藤澤 美穂 助教 廣瀬 清英 講師	書く技術 1/書く技術 2(2 コースに分かれて実施) 1. 論理的な文章とは何かを説明できる。 2. 主張・根拠・結論を備えた論理的文章を作成することができ

						る。 [A-2-2)-②]
C1	6/29	金	3	哲学分野 文学分野 心理: 行動科学分野 心理: 行動科学分野 法学分野 附属図書館	遠藤 寿一教授 平林 香織教授 相澤 美穂 教授 藤澤 美穂 講師 司書	書く技術 2/文献検索演習 (2 コースに分かれて実施) 1. 論理的な文章とは何かを説明できる。 2. 必要かつ適切な医療情報を図書館やインターネットを活用して収集することができる。 [A-2-2)-①②]
C1	7/6	金	3	哲学分野 文学分野 心理学·行動科学分野 心理学·行動科学分野 法学分野	遠藤 寿一教授 平林 香織教授 相澤 文恵教授 接藤澤 美穂 助教 廣瀬 清英講師	ディベート 1 1. ディベートとは何か(意義・ 方法)を説明できる。 [A-2-2)-②]
C1	7/6	金	4	哲学分野 文学分野 心理学·行動科学分野 心理学·行動科学分野 法学分野	遠藤 寿一教授 平林 香織 教授 相澤 文恵 教授 藤澤 美穂 助教 廣瀬 清英 講師	ディベート 2 1. 与えられた立場を肯定する理由を案出し、根拠づける資料を収集することができる。 2. 与えられた立場を否定する対論者の理由を想定し、反論を用意することができる。 [A-2-2)-①②、A-2-1)-③④、A-4-1)-②]
C1	7/13	金	3	哲学分野 文学分野 心理学·行動科学分野 心理学·行動科学分野 法学分野	遠藤 寿一教授 平林 香織 教授 相澤 文恵 教授 藤澤 美穂 助教 廣瀬 清英 講師	ディベート 3 1. 自分たちの主張と根拠を分かりやすく表現することができる。 2. 相手の議論の構造、隠れた前提、根拠を批判的に吟味して、反論を組み立てることができる。 [A-2-2)-②、A-4-1)-②]
C1	9/6	木	4	哲学分野	遠藤 寿一 教授	論理的思考入門 1 1. 論証のタイプを判別し、基本的論理関係を説明することができる。 [A-2-2)-②]
C1	9/13	木	4	哲学分野	遠藤 寿一 教授	論理的思考入門 2 1. 科学的思考の基本となる推論のタイプを判別することができる。 [A-2-2)-②]

C2	4/13	金	2	哲学分野	遠藤 寿一 教授	多職種ガイダンス 1. 多職種連携と本講義の関係を 理解し、説明できる。
C2	4/18	水	4	文学分野 体育学分野 附属図書館	平林 香織 教授小山 薫 准教授司書	図書館演習 1. 図書館を有効に利用して、情報を収集し、与えられた条件に相応しい書籍を探し出すことができる。 [A-2-2)-①]
C2	4/20	金	3	哲文文心心法数物物物物化化化化生生英英体数英生英生学学学学学学理理理理学学学学物物語語育学語物語物分分分行行分分学学学学科科科科学学分分学分分学分学野野野科科科科科科科科科野野分野野科科科科科科科科	遠平三相藤廣江佐小小寒中東岩吉松三J柳小長大阿J内格林浦澤澤瀬尻藤松田河島尾渕田政枝咽谷山谷沼部神馬香康文美清正英真泰 理浩玲潤正聖H千薫 仁博雷二一織宏恵穂英一一講行康教典子助俊講的枝准大美和Ogk枝教助教助講教教師助朗授講助教教師。子教助助助助助授授教授教師授教師授講助教教師。子教助助助助助授授教授教師授教師授講助教教師、教助授教教教教教教教教教授教師授教師授授、教助	ワークショップ① PBL オリエンテーション(記念講堂)と KJ 法による討議(SGL 1. 問題解決型学習の意義を説明できる。 2. KJ 法を用いて問題点の抽出ができる。 [A-2-1)-①②③④、A-2-2)-②、A-4-1)-②、A-9-1)-①]
C2	4/20	金	4	哲文文心理学·行動科学分野野、公理学·行动的学学学学,有助科学分学理理理理学学学分学学学学科科科科科科科科科科科科科科科科科科科科科科科	遠平三相藤廣江佐小小寒中東藤林浦澤澤瀬尻藤松田河島尾寿香康文美清正英真泰 理浩一織宏恵穂英一一講行康教典科教助教助講教教師助朗授講明 教	ワークショップ② 二次元展開法による討議(SGL) 1. 二次元展開法を用いて問題点 を整理できる。 [A-2-1)-①②③④、A-2-2)- ②、A-4-1)-②]

				化化生生英英体数英生英生学学学分分分学分分学分分学分分学分分学分分学分学分学分学分学分学分学	岩渕 玲 助教 書出 型	
C2	4/27	金	3	哲文文心心法数物物物物化化化化生生英英体数英生英生学学学学学理理理理学学学学物物語語育学語物語物分分分行行为学学学学学科科科科学学分分学分分学分学野野野科科科科科科科科野野分野野科科科科科野野分野野科科科科	遠平三相藤廣江佐小小寒中東岩吉松三J柳小長大阿Joh内藤林浦澤澤瀬尻藤松田河島尾渕田政枝ma今山谷沼部山藤寿香康文美清正英真泰 理浩玲潤正聖Ho千薫 仁博响雪一織宏恵穂英一一講行康教典子助俊講的枝准大美和Ogu枝教教助教助講教教師助朗授講助教教師。子教助助助助助授授教授教師授授 教助 師教 授 授教教教教教教	ワークショップ③ PBL オリエンテーション(記念講堂)と討議(SGL) 1. 問題点の解決策を提示することができる。 [A-2-1)-④⑤、A-2-2)-②、A-4-1)-②]
C2	4/27	金	4	哲文文学 心理学 分野野 沙理学 分野野 沙理学 计分别科学分分 等 沙理学 学 分分 等 学 学 学 学 学 学 学 学 学 学 学 学 学 学 学 学	遠平三相藤廣江佐州小馬香藤本浦澤澤瀬尻藤松田清澤瀬尻藤松田河門 大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大	ワークショップ④ ポスター作成・プレゼン準備 1.分かりやすいプロダクトを作 成することができる。 2.説明すべき内容を簡潔にまと めることができる。 [A-2-2)-②、A-4-1)-②]

				化化化化生生英英体数英生英生学学学物物語語育学語物語物語物語等分分学分分学分分学分分学分分学分学的学科野野科野野科野科野野科野野野科野科	中東岩吉松三Jamas Hobbs 子教助的教教師教持不養和一次, 授講的教教師教師教力 授講的教教師教的技工。 一博和 Jonathan Levine-Ogura 助助助助助助助助助助助助助助助助助助助助助助助助助助助助助助助助助助助助	
C2	5/11	金	3	哲文文心心法数物物物物化化化化生生英英体数英生英生学学学学学学理理理理学学学学物物語語育学語物語物分分分行行分分学学学学科科科科学学分分学分分学分学野野野科科科科科科科科野野分野野科科科科科野野科野科学学	遠平三相藤廣江佐小小寒中東岩吉松三J柳小長大阿Joh內藤林浦澤澤瀬尻藤松田河島尾渕田政枝ma、出寿香康文美清正英真泰(理浩玲潤正聖Ho千薫)仁博wine-雪一織宏恵穂英一一講行康教典子助俊講bb枝准大美和Ogu枝教教助教助講教教師助朗授講助教教師。子教助助助助助授授教授教師授授《教助》師教《授》授教教教教教教教教教授教師授授》教助《授》授教教教教教教教教教授教師授授》教助《授》授教授教師授授》教助《授》授教教教教教教教教教授教師授授》教助《授》授教教教教教教教教教教教教教教教教教教教教教教教教教教教教教教教	ワークショップ⑤ ポスター発表 1. 討議の成果をわかりやすく説 明することができる。 2. 質疑に適切に応答することが できる。 [A-2-2)-②、A-4-1)-②]
C2	5/11	金	4	哲学分野文学分野 文学分野 小理学 · 行動科学分野 小理学 · 行動科学分野 法学分 野 数 学 学 学 学 学 科 物 理 学 科	遠平三相藤 東香康文美清正 一種宏恵 一種宏恵 一種宏恵 一世 一世 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大	ワークショップ⑥全体講義 1. 多職種連携の事例を学び、その課題を説明できる。 2. 各自の作業をふりかえり、今後の課題を検証することができる。 [A-2-1)-⑤、A-4-5)-①]

				物物化化化化生生英英体数英生英生物物化化化化生生英英体数英生英学学外物語語育学語物語物学分分学分分学分学分学科科科科科科科野野分野野科野科科科野野	小寒中東岩吉松三Ja柳小長大阿加州馬島尾渕田政枝面紹名山川 理浩玲潤正聖HOH子薫 仁博哈の明 投講助教教師教助時教教師教助時教教師教師教師教師教師教師教師教師教教師教教師教教師教教師教教教教教教教教	
C2	5/18	金	3	緩和医療学科 哲学分野 心理学·行動科学分野 心理学·行動科学分野 心理学·行動科学分野 以理学分野 以理学分野	木村 祐輔 特任教授 遠藤 寿織 教教授授 教教教 助 動師 清華 清英 清英 清 清 書	アカデミックリテラシーガイダンスとコンセンサスワーク/文献検索演習(2 コースに分かれて実施) 1. チームで考え、活動することの重要性を説明することができる。 2. 必要かつ適切な医療情報を図書館やインターネットを活用して収集することができる。 [A-2-2)-①②、A-4-1)-②]
C2	5/25	金	1	哲学分野 文学分野 心理学·行動科学分野 心理学·行動科学分野 法学分野 附属図書館	遠藤 寿一教授 平林 香織 教授 相澤 文惠 美穂 財教 勝澤 美穂 購瀬 清英 清萬書	アカデミックリテラシーガイダンスとコンセンサスワーク/iPEG説明/文献検索演習(3コースに分かれて実施) 1. チームで考え、活動することの重要性を説明することができる。 2. 多職種連携が重視されるようになった歴史的・社会的な背景を理解し、その意義を説明することができる。 3. 必要かつ適切な医療情報を図書館やインターネットを活用して収集することができる。 [A-2-2)-①②、A-4-1)-②、A-5-1)-①②]
C2	6/1	金	3	哲学分野 文学分野 心理学·行動科学分野	遠藤 寿一 教授 平林 香織 教授 相澤 文恵 教授	iPEG 説明/iPEG(2 コースに分かれて実施) 1. 多職種連携が重視されるよう

				心理学·行動科学分野 法学分野	藤澤 美穂 助調 廣瀬 清英 講師	
C2	6/8	金	3	哲学分野文学分野心理: 行動科学分野心理: 行動科学分野 心理: 行動科学分野 法学分野 法学分野 附属図書館	遠藤 寿織教 教 相澤 美 清	受 2. 発言(文章)に含まれる議論 受 の構造、隠れた前提、根拠を意 数 識し、批判的に検討することが
C2	6/15	金	3	哲学分野 文学分野 心理: 行動科学分野 心理: 行動科学分野 法学分野 附属図書館	遠藤 寿一教 平 本 香織教	受
C2	6/22	金	1	哲学分野 文学分野 心理学·行動科学分野 心理学·行動科学分野 法学分野	遠藤 寿一教 平林 香織教 相澤 文恵教 藤澤 美穂助 廣瀬 清英講	受 1. 論理的な又草とは何かを説明 できる。 できる。 2. 主張・根拠・結論を備えた論 知的文章を作成することができ
C2	6/29	金	3	哲学分野 文学分野 心理学·行動科学分野 心理学·行動科学分野	遠藤 寿一 教 平林 香織 教 相澤 文恵 教 藤澤 美穂 助	受 ースに分かれて実施) 受 1. 論理的な文章とは何かを説明

				法学分野 附属図書館	廣瀬 清英 講師司書	2. 必要かつ適切な医療情報を図書館やインターネットを活用して収集することができる。 [A-2-2)-①②]	
C2	7/6	金	3	哲学分野 文学分野 心理学·行動科学分野 心理学·行動科学分野 法学分野	遠藤 寿一教授 平林 香織 教授 相澤 文恵 教授 藤澤 美穂 助教 廣瀬 清英 講師	ディベート 1 1. ディベートとは何か(意義・ 方法)を説明できる。 [A-2-2)-②]	
C2	7/6	金	4	哲学分野 文学分野 心理: 行動科学分野 心理: 行動科学分野 、法学分野	遠藤 寿一 教授 平林 香織 教授 相澤 文恵 教授 藤澤 美穂 助教 廣瀬 清英 講師	ディベート 2 1. 与えられた立場を肯定する理由を案出し、根拠づける資料を収集することができる。 2. 与えられた立場を否定する対論者の理由を想定し、反論を用意することができる。 [A-2-2)-①②、A-2-1)-③④、A-4-1)-②]	
C2	7/13	金	3	哲学分野 文学分野 心理学·行動科学分野 心理学·行動科学分野 法学分野	遠藤 寿一 教授 平林 香織 教授 相澤 文恵 教授 藤澤 美穂 助教 廣瀬 清英 講師	ディベート 3 1. 自分たちの主張と根拠を分かりやすく表現することができる。 2. 相手の議論の構造、隠れた前提、根拠を批判的に吟味して、反論を組み立てることができる。 [A-2-2)-②、A-4-1)-②]	
C2	9/6	木	4	哲学分野	遠藤 寿一 教授	論理的思考入門 1 1. 論証のタイプを判別し、基本的論理関係を説明することができる。 [A-2-2)-②]	
C2	9/13	木	4	哲学分野	遠藤 寿一 教授	論理的思考入門 2 1. 科学的思考の基本となる推論のタイプを判別することができる。 [A-2-2)-②]	

・教科書・参考書等

教:教科書 参:参考書 推:推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	スタディ・ナビゲーション			2018
参	大人のための国語ゼミ	野矢茂樹	山川出版	2017
参	考える・まとめる・表現する	大庭コティさち子	NTT 出版	2011
参	理科系の作文技術	木下是雄	中央公論	1981

·成績評価方法

講義の聴講姿勢・講義内容の把握・課題への取り組み・ グループ討議・活動への参加態度によって総合的に評価する。

・特記事項・その他

PBL-WS では各グループの討議や作業について、適宜テューターがアドバイスをする。また、PL(全体講義)において講評を行う。

iPEG、コンセンサスワーク、ディベートでは、指導教員が各グループの作業について適宜アドバイスし、授業終了時に講評を行う。

論理的思考入門では、確認テストを行い、誤答率の高い問題を重点的に解説する。

ロジカルライティングでは、作成したレポート作成 作業について、適宜アドバイス等を行う。 なお、教科書(スタディ・ナビゲーション)と各回配布される資料を用いて、事前学修(予習・復習)を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低 30 分とする。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的			
登録済の機器・器具はありません						